

帰郷

霧のような雨が
笛の音に滴を加える

この木陰は濡れていない

ひりりとしたミントの茂みを
僕はひとさし指でかき回す

少しひんやりとした空気

明日には郷里へと着くだろう
人ひとり残っていない地名だけの場所へ

ふくらはぎを揉みほぐす

きつともうすぐ日が暮れるだろう

今夜はここで寝^{やす}もう

リュックの中を探る

ああ、この時を迎えられなかった者達
僕を置いて逝ってしまった者達
彼らの残した宝石のような憧れが
この掌の中に記されている
この数冊の本の中に...

明日は君達を届ける事ができる
僕はそれを埋める
そして笛を吹こう

途切れていた旋^{メロディー}律を

(1999.9.16)